

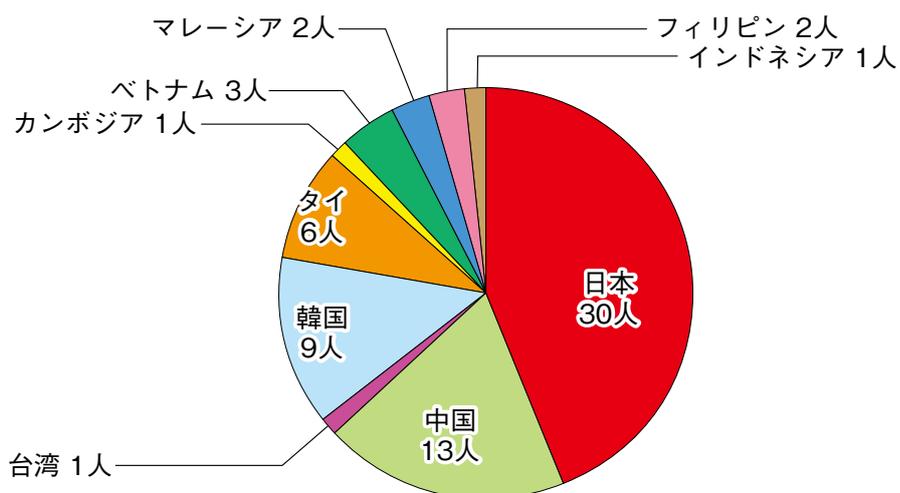
第2部

輝く女性たちの多様な生き方から
得られるヒント

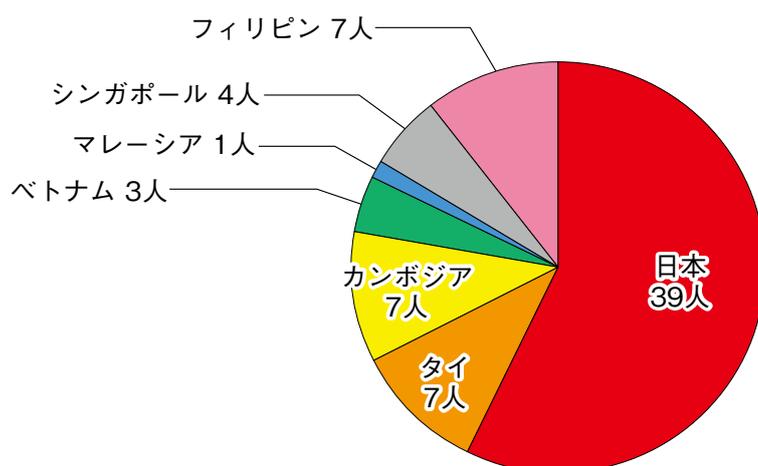
本報告書の第1部では、アジア・太平洋地域で活躍する68名の架け橋女性の具体的な生き方・働き方を事例集として取りまとめたが、こうした中から、様々なヒントを得ることができる。第2部では、これから起業を目指したり、アジア・太平洋諸国の架け橋として活躍を目指したりする人たちの参考となるよう、68名の女性たちの共通点、困難の乗り越え方、ワーク・ライフ・バランスを実現するための工夫などをまとめている。

I 架け橋女性（全68名）の概要

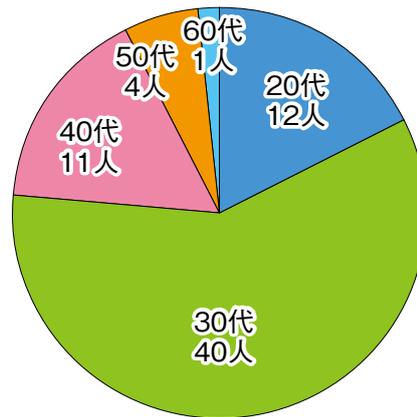
1. 出身国・地域



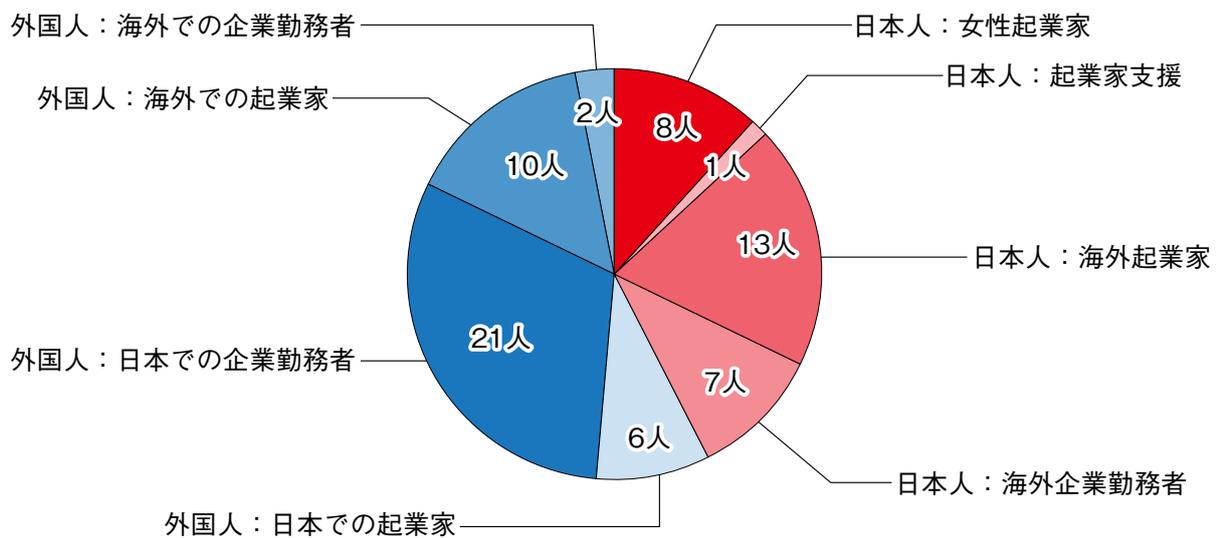
2. 現在の居住地



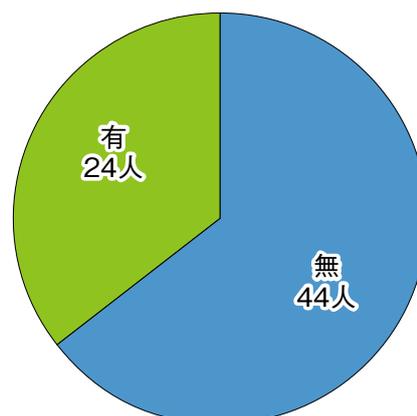
3. 年齢構成



4. 就業属性



5. 子供の有無



Ⅱ 輝く女性たちの成功要因分析

本節では、1. 働き方、2. ワーク・ライフ・バランスを実現するための工夫、3. 国を越えた生き方のヒント、の3つに分け、共通点やそれぞれの状況をまとめた。

1. 働き方では、68名の女性たちを以下の2つのグループに分けている。

- (1) 起業家の女性たち
- (2) 国を越えて就労した女性たち

その上で、それぞれのグループごとに、下記の3つのテーマについてまとめた。

- ① 起業、又は海外就労のきっかけ
- ② 共通して見られる特徴
- ③ これまでに直面した課題と、それをどのように乗り越えたか

2. ワーク・ライフ・バランスを実現するための工夫

3. 国を越えた生き方のヒントでは、68名の女性の様々な工夫やアドバイスを整理している

1. 働き方

(1) 起業家の女性たち

① 起業のきっかけ

きっかけ	詳細
【日本での起業】 日本の企業慣行や社会・制度に対する疑問から、自分が望む環境を求めたため	<ul style="list-style-type: none"> ■ 長時間労働等、日本の企業慣行に馴染めなかった ■ 出産後の仕事の継続、企業内でのキャリアアップが困難だった ■ 企業での勤務形態が子育て期間には負担だった ■ 家族と長い時間一緒にいられる環境で働きたかった ■ 専業主婦になった後、再就職することができなかった
【アジア・太平洋地域での起業】 国際協力に関心があったから	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際協力に関心があったが、支援をするような国際機関に就職するよりも、雇用を生み、地域に利益を還元するビジネスをしたいと考えた ■ ビジネスとして、踏み込んだ途上国支援を実施したかった
欲しいと思ったサービス・商品がなく、自分で提供しようと思ったから	<ul style="list-style-type: none"> ■ 海外就職をしようと思ったときに、情報がなかった ■ 質が高くデザインに優れた製品がなかった ■ 自分で人の生活に変革をもたらす技術開発をしたかった ■ 社会貢献とビジネスを両立させている既存の事業が見つからなかった ■ 日本にはあるがその国にはないサービスや商品を提供したかった ■ その国の情報が少なく、情報発信したかった
起業家と知り合って起業が身近になったから	<ul style="list-style-type: none"> ■ 仕事の取引先にベンチャー企業の創業者がいて、起業を身近に感じるようになった ■ 事業の立上げ等を手伝っていて、自分もサービスを提供してみたいくなった ■ 「自分で事業をする」という発想は全くなかったが、周囲から起業の話聞いて「そういう世界があるのか」と気付いた
企業勤務に不満を覚えたから	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業勤務では、重要な意思決定をできないなど、物足りなさを覚えた ■ 自分の仕事が社会に役立っている実感がなかった
知り合いに勧められたり、別のことをしていたら結果的に起業することになった	<ul style="list-style-type: none"> ■ 知り合いに起業してみてもどうかと勧められた ■ 起業したくて何かをしたというより、別のことをしていたら起業した方が良いということになり起業した
起業時に利用した制度	<ul style="list-style-type: none"> ■ 民間の起業塾への参加 ■ 自治体・政府の起業支援セミナー ■ 政府系金融機関の資金支援 <p>※制度を利用していない女性も多い</p>

②共通して見られる特徴

特徴	詳細
長く働きたいと考えている	<ul style="list-style-type: none"> ■ 母や祖母等、身近に働く女性がいたことから、子供の頃から手に職を付けるなどして長く働きたいと考えていた
良いメンター・パートナーを見つけている	<ul style="list-style-type: none"> ■ メンター・アドバイザーが身近にいる ■ 幅広いネットワークやコネクションを持っている
事業の拡大よりも、生活と両立できるモデルを模索	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業の拡大や収益の大幅な増加よりも、子育てやプライベートとの両立が可能な規模での活動を望む ■ 事業の差異化や継続性に重きを置く
仕事とプライベートが明確に分かれていない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワーク・ライフ・バランスを求めて起業し、子供のそばで仕事をしている ■ 「好きなことを仕事に」し、仕事とプライベートが混ざり合って明確に分けることができないが、好きなことをしているので苦にはならない
行動力がある	<ul style="list-style-type: none"> ■ 綿密な事業計画・資金計画等を準備したケースは少数 ■ まずは行動し、走りながら考えたというケースが多い

③これまでに直面した課題と、それをどのように乗り越えたか

課題	詳細
様々な経済的リスク（資金難・経営難）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業後、見通しが甘くすぐに資金難に陥り、借入を増やしたが、クライアントの獲得のため、費用の掛からない方法での広報活動に注力し、事業が軌道に乗った ■ 経験が浅く事業が失敗したが、事業転換を行い、軌道に乗せることができた ■ ビジネスの仕組みの甘さや、家事・育児との両立が難しく一度失敗をしたが、その経験を糧に再起して成功した ■ 多様なクライアントを持ち、タイプの違うビジネスにも対応できるようにしておく ■ できるだけ多くの資金調達方法（政府系金融機関、政府や自治体の補助金、ベンチャー・キャピタル、投資家、クラウドファンディング等）を持つ
起業のビジネスパートナー、従業員、クライアント等とのトラブル	<ul style="list-style-type: none"> ■ できるだけ信頼できるパートナーを見つける ■ パートナーに任せ切りの経営をしない ■ パートナーとはトラブルになりやすいが、完璧に合う人などいないので、合わない人でも議論を避けずに、目指すところを共有する ■ 日本人と海外の人の価値観の違いを理解するように努め、パートナー・従業員・クライアントの不満をためないように、会社のビジョンを説明したり、できるだけコミュニケーションを密に取ったりするようにする ■ 従業員の採用の際にインターン制度を取入れる
女性経営者としての孤独・迷い	<ul style="list-style-type: none"> ■ 経営者として「上に立つ」という感覚ではなく、自分の得意なところに注力し、不得意なところを得意な人に任せるようにする ■ 自分ですべてを行うのではなく、数値や戦略を現実的に考えたり、組織作りや会社を安定的に回す手助けをしてくれる男性の力を借りることも重要 ■ 女性が仕事でうまくいくと、夫が面白くないと感じたり寂しさを感じたりして、関係が悪化したり離婚したりするケースもあるので、家庭では相手のアドバイスを良く聞き、時には頼ることも必要

(2) 国を越えて就労した女性たち

①海外就労のきっかけ

きっかけ	詳細
海外への憧れ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 子供や学生の頃から外国語や海外に興味があり、海外で働くことを目指していた ■ 海外旅行や留学、仕事等で海外に縁ができた結果、その国を好きになり、住みたい・働きたいと思うようになった <p>【海外出身で日本で就労】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の文化（歴史、アニメ、自然等）に憧れて留学し、日本の企業勤務経験が積みたかった ■ 日本に対して良いイメージがあった ■ 同じアジアの国ということで文化的な違いが少ないと思った
地理的な近さ	<ul style="list-style-type: none"> ■ アジア諸国・地域と日本の距離が近いこと、帰国しやすく、両親の承諾を得やすい
家庭の事情	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国際結婚 ■ 配偶者の海外転勤等、海外への移住
自分が望む環境を求めて海外へ	<p>【日本出身で海外で就労】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の就職活動に疑問を感じ、海外の就職を目指した ■ 日本では当たり前の長時間労働・通勤ラッシュなどをせずに働きたかった ■ 生まれる国は選べなくても死ぬ国は選べる <p>【海外出身で日本で就労】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 出身国・地域では、就職が日本以上に困難であったりキャリアが限られたりするため、海外に出た ■ 海外で働いた方がキャリアアップしたとみなされる
利用した制度	<p>【日本出身で海外で就労】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ワーキング・ホリデービザの活用（特に20代前半） ■ インターン制度を利用し海外に渡ってから、その国での生活や就職が自分に合うかどうかを確認した <p>【海外から日本への留学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 文部科学省の奨学金制度、大学の奨学金、又は学費免除・減免制度、民間財団の奨学金制度 等

②共通して見られる特徴

特徴	詳細
多様性や柔軟性を持つ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 外国人としての視点を持ちながら、日本やその国の価値観を受容している ■ 頑なではなく状況に応じて臨機応変に、柔軟に対応している
前向きで行動力がある	<ul style="list-style-type: none"> ■ 留学時、就職時の困難に直面しても、解決策を探り、前向きに対応策を検討し、実践してきた ■ 語学の勉強のみならず、専門性やノウハウの習得、ネットワークを広げるなどの行動力がある ■ 失敗から学ぶ、とりあえずやってみる、食わず嫌いにならない ■ 日本人・その国の外国人問わず、広く交流し、友人ネットワークづくりを行っており（サークル、アルバイトなど）、日本やその国の習慣、価値観、常識を知る、語学習得の機会としている
【日本人で海外就労】 アジア地域では女性が働きやすいと感じている	<ul style="list-style-type: none"> ■ アジア地域では、日本よりも女性が働いている割合や管理職の割合が高く、ベビーシッター等が使いやすい国が多いことから、日本に比べ女性が働きやすいと感じているケースが多い ■ ただし、同時に女性だからという甘えは許されず、出張も含め男女同様の責任が求められる

③これまでに直面した課題と、それをどのように乗り越えたか

特徴	詳細
海外生活での孤独感	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生であればアルバイト、サークル活動、ボランティア活動、社会人であればボランティアや子供の活動など、学校や会社以外の様々なネットワークや仲間を作っておく ■ 主要都市のみならず、地方にも足を運び、その国のことを良く知る ■ 様々なことに臆せず挑戦し、人との関わりを持つ ■ 留学生・外国人同士で固まらず、気が合う人、感覚が合う人と、国籍を問わず付き合うようにする
価値観の違い	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分の価値観とその国の人々との価値観が違うことを認め、できるだけ住んでいる国の人々の価値観を尊重する ■ 相手の行動が理解できない場合も、なぜそうなっているかをきちんとコミュニケーションする
【海外出身で日本で就労】 日本滞在の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本では英語を話せる人が少なく、役所の手続き、電話の契約等、生活を始めることが難しいため、サポートがあると良い ■ 住宅を借りる際の保証人を見つけづらいが、現在は保証人協会などが利用可能
【海外出身で日本で就労】 日本での就職活動	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語がほぼ完璧にこなせることのほか、英語のレベルアップが必要 ■ 母国への帰国を尋ねられた場合は、「今のところは、帰国する予定はない」と答えるなど、面接官の不安を払拭するような回答を行う ■ 「留学生受入可能」とはっきり明示する日本企業は少ないが、外国人の従業員の人数や割合などの情報収集をしておくことが必要 ■ 本当に日本で働きたいならば、3～4社落ちたくらいでは諦めないことが大切
【海外出身で日本で就労】 日本企業で働く際のトラブル	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「日本らしいやり方」をきちんと習得し実践すること（日本の企業のルールは細かく、数も多い） ■ 上司の意見はすべてという風潮があるが、必要な意見は率直に伝え、考えを通す必要があると判断した時には臆せず伝えるように心がける ■ 日本人の「本音と建前」「発言しない」「断言を避け、曖昧な表現が多い」「慣例・前例の意義を考えずただ継続しがち」といった特質を理解し、仕事や付き合いをする必要がある

2. ワーク・ライフ・バランスを実現するための工夫

工夫	詳細
自分の働き方を変える	<ul style="list-style-type: none"> ■ 出産前は時間を気にせず働いていたが、出産後は仕事の時間を決め、残業をしないように工夫 ■ 育児期に「休む」か「仕事」かの二択ではなく、子供のそばにいなから仕事をする中間の選択肢が欲しいと思い起業した
夫や家族、近所の協力を得る	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャリアと家庭のバランスを取るためには、自分の夢と情熱を支え、幸せと成功を願ってくれている人と結婚することも重要 ■ 育児期には、自分や夫の両親を頼る ■ 夫と家事・育児を分担する。国によっては、男性が家事・育児を積極的に行うのがスタンダードな場合もある ■ 国によっては、近所の人々が様々なことを気にかけてくれ、地域の助け合いが色濃い地域もある
メイド、ベビーシッターなどのサービスを活用	<ul style="list-style-type: none"> ■ 託児施設やベビーシッターを活用する ■ 特に、アジア諸国においては、費用が安いこともあり、メイドやベビーシッターを活用するなどして、家事や育児の負担が軽減するような工夫をしているケースが多い

工夫	詳細
100%を求めない	<ul style="list-style-type: none"> ■ それぞれに100%を求めず、60～70%を全て継続することで、仕事、家庭、趣味等を両立し、継続できる
女性のライフサイクルに配慮する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 女性は子育て等のライフサイクルを考え、一生チャレンジし続けたり、頑張り続けるのではなく、時には休む時期があってもいいことを認識しておく ■ 仕事と家庭のバランスは、ライフステージによっても、個人の価値観によっても変わるので、そこに正解はない
周りの人に頼り、女性であることを楽しむ	<ul style="list-style-type: none"> ■ がむしゃらに働き、1人で頑張り続けるのではなく、周りの人に得意な作業を任せたり、家族や夫にうまく頼ったりする ■ 女性であることを楽しみ、仕事にも活かすようにする

3. 国を越えた生き方のヒント

工夫	詳細
海外で生活することや働くことは思っているほど難しくない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ワーキング・ホリデー、インターン、現地採用、留学時のアルバイト（所定のビザが必要な場合もある）等様々な方法がある。一度現地に足を運び、自分に合っているかどうかを試してみると良い
生き方・働き方の多様性を認識する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本に住んでいると、「大学卒業後は1つの企業に長く勤務し、結婚し子育ても両立させなくてはならない」という1つの選択しかないように思いがちであるが、海外に目を向けてみれば、それ以外の選択肢があることに気付き、気分が楽になる場合もある ■ 幸せの基準は個人個人で違うため、何をもって自分が幸せと思えるか、早くに見出すべき。他人の評価で決めてしまうと、一生幸せになれない ■ 成功のパターンは1つではない
できるだけ行動し、発信する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 考えてばかりではなく、またインターネットに依存した情報収集ではなく、「行動してみること」が時には必要 ■ 周りの人にやりたいことを発信する（相談する）ことで道が開けることも多い
自分を良く見つめる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分が何をしたいのか、自分はどんなことが向いているのか、自己理解を徹底的にすることが必要。自己理解がないと、進む道に不安を覚えてしまうためである
自分の強みをみつける	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1つの「やりたいこと」を見いだせず悩みを感じる人がいるが、こういう人は、様々なことに興味を持つことや多様な経験から、創造的でイノベティブな人材として社会に貢献できる ■ 人と違うところは魅力になる。違うところに自信を持つ
語学・コミュニケーション能力を磨く	<ul style="list-style-type: none"> ■ ビジネス上では英語のスキルは必要で、英語ができるかどうかで顧客の獲得や就職といったチャンスの掴み方が変わることもある。流暢でなくとも、伝えよう、理解しようという熱意は持ち続けるべき ■ 英語ができる人も多いため、英語だけでできれば良いというわけでもない。英語以上の何かが必要 ■ 複数の言語ができることが強みになる ■ 英語が得意でなくとも、現地語を磨き、ビジネスで役立つ方法もある ■ アジア地域の英語が母語・公用語でない国においては、現地の人にとっても英語は外国語であり、一生懸命こちらの話を聞いてくれる。そのため、英語が母語の国・地域よりも頑張りすぎなくて良い一面もある

■参考サイト

全国事務局ポータルサイト（わたしの起業応援net）

（女性起業家等支援ネットワーク構築事業）：

<http://joseikigyo.go.jp/>

女性の起業支援のため、地域の金融機関や創業支援機関、先輩女性起業家等を中心とした女性起業家等支援ネットワークを形成し、女性の多種多様なニーズに応える支援環境を整備。



地域創業促進支援委託事業（創業スクール）：

<http://www.sougyouschool.jp/>

全国で「創業スクール」を開催し、創業予備軍の掘り起こしから、起業・創業に関する基本的知識・スキルの習得、ビジネスプラン策定までを支援。平成28年度は136コース中、「女性起業家コース」を23コース実施。（平成28年11月現在）



女性向け小口の無担保・無保証創業融資（日本政策金融公庫）

https://www.jfc.go.jp/n/finance/sougyou/pdf/woman_shinsogyo_150220.pdf

女性の小口創業支援のため、300万円以内に限り雇用創出や経験を問わず、原則として無担保・無保証融資の対象とする特例を平成27年2月16日より実施。

